

浮世絵を通して見た江戸時代女性の人体表現について  
Female Body Shape Expressed on Ukiyoe during the Edo Era

森下あおい\*                      黒川隆夫\*\*  
Aoi morishita                      Takao kurokawa

\*成安造形大学 造形学部 大津市仰木の里

Seian University of Art and Design, Ohginosato, Ohtsu,

\*\*京都工芸繊維大学大学院 工学科学研究科 京都市左京区松ヶ崎

Graduate School of Science and Technology, Kyoto Institute of Technology

Matsugasaki, Sakyo-ku, Kyouto

日本固有の美意識が反映され描かれている浮世絵には、江戸時代の女性の装いの理想型が表現されており、その着衣形態は江戸時代の長い年月の中で多様な特徴を見せている。本稿では、江戸時代から明治初期に描かれた代表的な浮世絵師による作品を取り上げて7グループに分類し、描かれた女性の着衣形態から人体の形状を推測することによって、立位の女性の人体寸法についてのデータベースの構築と人体形状の特徴についての定量的分析を試みた。その結果、1)異なる絵師であっても同時期においては人体形状の捉え方に共通性が認められること、2)人体の部位の捉え方には時期的推移が強く見られる箇所、見られない箇所があること、3)現代成人実測値と比較して、くびれの少ないずん胴型の人体が描かれていることを指摘した。

Ukiyoe are considered to be a type of art particular to Japan and are generally thought to represent the typical reflection of the unique Japanese sense of beauty. They also serve as a valuable source of information concerning the ideal modes of female dressing during the Edo era, demonstrating that women's clothing styles were characteristically subject to temporal changes throughout the era. In this study, the authors selected ukiyoe works by various famous painters representative of the times, classified them into seven groups according to their painted time, estimated the body shape of the female models based on their clothed figures, are subsequently carried out quantitative analysis of different sizes measured on the estimated body shape in order to determine the characteristics of their body shape. They built a database which contained paintings of standing females, their estimated body and their body measurements. The results demonstrated that ; (1) the female body was depicted in a similar manner by different painters, when they belonged to the same period of time ; (2) some parts of the body were illustrated in different ways depending on times of painting, while there existed other parts expressed in a similar way all through the era ; and (3) The women on the paintings were expressed as having no waist compared with modern females.

キーワード：浮世絵, 江戸時代, 人体形状, 定量的分析.

Key words: Ukiyoe, Edo era, Body shape, Quantitative analysis.

1. はじめに

筆者らは描かれた装いと人体形状を手掛かりとして、着物のデザインあるいは着衣形態と体形の相関関係を記述することを目標に、立位に描かれた女性を対象とした絵画とそこから推定される人体寸法のデータベ

スの構築を試みている。対象としているのは小袖が現れる安土桃山時代から、江戸期と同様の手法による絵画が存在する明治初期までである。出土する人骨から<sup>1)</sup>は人類学的方法で人体を推定することは可能と思われ

るが、現実には身長以外の推定は行われていないとい  
 っても過言ではない。この点で、絵画資料の定量的分  
 析から当時の人体寸法や体形に関して意味のある情報  
 を提供可能ということになれば、種々の分野で絵画を

活用する可能性が開かれると考えている。

浮世絵は16世紀初めから17世紀中頃までの近世の  
 初期風俗画を母胎として誕生し、江戸時代には複数の  
 流派の多くの絵師たちが活躍した<sup>4)</sup>。浮世絵には描かれ

表1 資料とした浮世絵作品一覧

(作品数49)

作品名および分類番号	作者	生没年	作品年代
A-1 花下遊楽図		17世紀前半	A. 1600~1625
A-2 彦根屏風		17世紀前半	A
A-3 舞踊図		17世紀前半	A
B 縁先美人図		17世紀中頃	B. 1625~1650
C 和国百女	菱川師宣	?~1694	C. 1675~1700
D-1 虫籠と子供	鈴木春信	1725~1770	D. 1750~1775
D-2 風俗四季哥仙 三月	鈴木春信		D
D-3 風俗四季哥仙 水無月	鈴木春信		D
D-4 ほにぼろ	鈴木春信		D
D-5 当世七福神 大黒天	鈴木春信		D
E-1 吉野川の花いかだ	鳥文斎英之	1756~1829	E. 1775~1800
E-2 青楼芸者撰 おふく	鳥文斎英之		E
E-3 風俗東之錦 湯上り	鳥居清長	1752~1815	E
E-4 風俗東之錦 菅笠の娘	鳥居清長		E
E-5 色競艶婦姿 湯殿	鳥居清長		E
E-6 隅田の渡し	鳥居清長		E
E-7 美南見十二候 五月	鳥居清長		E
E-8 風俗東之錦 湯上り三美人	鳥居清長		E
E-9 四糸河原夕涼鉢	鳥居清長		E
E-10 浜町河岸の夕涼	鳥居清長		E
E-11 社頭の見合い	鳥居清長		E
E-12 難波屋おきた	喜多川歌麿	1753~1806	E
E-13 風流花之香遊び	喜多川歌麿		E
E-14 すきや	喜多川歌麿		E
E-15 両国橋々詰	喜多川歌麿		E
E-16 両国橋々詰	喜多川歌麿		E
E-17 青楼十二時 子の刻	喜多川歌麿		E
E-18 青楼十二時 丑の刻	喜多川歌麿		E
E-19 婦人・泊り客之図	喜多川歌麿		E
E-20 青楼十二時 申の刻	喜多川歌麿		E
F-1 星や霜当世風俗 房楊枝	歌川国貞	1786~1864	F. 1825~1850
F-2 隅田川晩夏の景	歌川国貞		F
F-3 舟送り	歌川国貞		F
F-4 すみだ川花の景	歌川国貞		F
F-5 当世美人合・三光きどり	歌川国貞		F
F-6 浮世名異女図会 東都 武丁町風	歌川国貞		F
F-7 婦娘の雪 伊豆の伊藤ふじ	溪斎英泉	1791~1848	F
F-8 新吉原八景・浅草寺の晩鐘	溪斎英泉		F
F-9 浮世姿美人合	溪斎英泉		F
F-10 秋葉常夜燈	溪斎英泉		F
F-11 新吉原八景 楼上の秋の月	溪斎英泉		F
F-12 東部呉服屋三幅対 あびすや	溪斎英泉		F
F-13 秋葉常夜燈	溪斎英泉		F
G-1 仮寝のきぬぎぬ	月岡芳年	1839~1892	G. 1850~1875
G-2 神奈川横浜之風景	月岡芳年		G
G-3 皇国二十四功 尾上の召仕お初	月岡芳年		G
G-4 庭園の春景	揚洲周延	1838~1912	G
G-5 憲法発布上野賑	揚洲周延		G
G-6 幻燈写心競洋行	揚洲周延		G

ている女性たちの典型的な容姿が存在し、さらにこの典型は同じ流派は勿論のこと、異なる流派の絵師の間でも同時期には非常に類似した容姿<sup>6)</sup>が見出される。しかしそれらはあくまでも鑑賞者の主観的な印象としての評価であることが多い。また浮世絵の人体表現を対象とした研究では、人体美学の観点からの頸部形態の研究<sup>8)</sup>や、計量的な顔表現の研究など、主に頭部を分析の対象としたものが大半であり、その全身形状の特徴を定量的に分析しようとした体系的研究はない。

本稿ではまず浮世絵に描かれた容姿そのまま、その着衣に内在している人体を想定して、その人体形状を表出し、人体各部位の寸法やプロポーションを算出するという手法を用いて浮世絵に描かれている女性の人体表現について定量的記述を得る。そしてそれら情報として含むデータベースを構築するとともに、その情報に基づいて浮世絵を通してみた江戸時代の女性の体形の特徴を分析する。

## 2. 資料および方法

### 2. 1 資料

本報告では、17世紀前半から19世紀後半において描かれた浮世絵49作品について、成人と考えられる女性の全身が描かれているものを資料とした。選んだ絵師は、いずれも浮世絵師として各時代を代表する絵師である。また江戸時代の浮世絵の時系列での推移を見るために、近世初期の風俗画と称されるものや、幕末から明治初期にかかる作品までを含め、浮世絵として分析の対象とした。これらについて、作品が制作された時期や絵師が活躍した時期、また生没年を考慮すると、表1に示すA. 1600~1625, B. 1625~1650, C. 1625~1650, D. 1750~1775, E. 1775~1800, F. 1825~1850, G. 1850~1875, の7つのグループに分けることができる。得られた7つのグループの浮世絵史としての流れを概略すると、A, Bは近世初期の風俗画としての表現, Cは浮世絵の誕生期, Dは錦絵として浮世絵の表現の開始期, Eは浮世絵の全盛期, Fは風景など人物以外の対象が盛んに描かれた江戸後期, Gは時代の風俗を描く浮世絵としては終焉期とされる幕末から明治期である。

### 2. 2 方法

浮世絵に描かれている人体の形状を描出するための方法として、資料とした浮世絵全作品についての着衣状態を観察し、首や手足など形状が露出して判明している箇所を手掛かりに人体形状のトレースを行った。次に肩部や肘など比較的着物と密着した状態で描かれている部位を見極めて着衣の上から直接人体の形状を表わす線を描いた。胸部から腰部など、着衣によって形状が把握し難い部分は、着物の着付け上の観点から適切と考えられる帯の位置と人体との関係を判断して人体形状を表現し、脚部については、床面に描かれている足の大半が片足であったので、現実的に想定される複数のポーズを仮定した上で、全体からみて最も自然なポーズを選択し描いた。なおこれら人体形状線の描出の際には画家の指導を得た。図1~4は、このようにして得られた人体形状の例である。

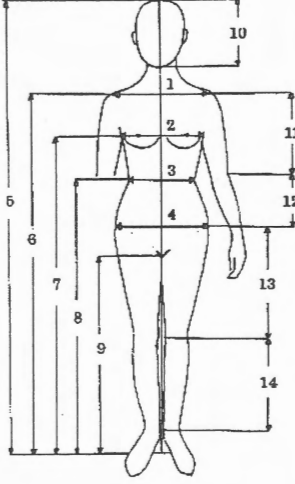
浮世絵に描かれた人物像の大半は、何等かのポーズをとっているため、プロポーションの算出や浮世絵間での比較が困難である。そこで現実の女性のモデルによって浮世絵49作品のポーズを再現し、浮世絵ポーズの人体の傾きや伸縮率を求めるための撮影を行った。

撮影に際しては、モデルのウエストの位置にベルトを着用し、肩峰点、頸前点、頸側点、乳頭点、前腋点、後腋点、臍点、腸骨稜点、脚付け根の位置で大腿部中点の位置、膝線の位置、内果点、外果点にマークをつけて基準点とし、正面での直立状態と浮世絵ポーズをデジタルカメラで撮影した。なお正面の直立状態とポーズ撮影時のモデルの立ち位置、撮影条件は一定になるようにした。得られた写真上で基準点、および人体形状のシルエットをもとに人体寸法を定規によって計測し、浮世絵ポーズと正面直立状態との変化の比率を算出した。この比率はポーズによって生じた浮世絵上の各部位における描写比である。

次に描出した浮世絵の人体形状について、モデルの写真と同様に人体寸法を計測し、さきに算出した描写比を用いて正面直立状態と仮定した場合の浮世絵の人体寸法を算出した。計測した人体寸法の項目は、人体形状を把握するために有用であり、かつ浮世絵の人体表現から計測可能な14項目を選んだ。計測項目は表2に、その位置を図5に示す。

データベースには、作品名、絵師名、制作年代などの資料情報に加え、上述の方法で得た寸法(実寸)、示数(対身長比を%で表わしたもの)の項目を設定し、データ取得とともにデータベースに入力した

表2 計測項目



項目	
1 肩峰幅	幅径
2 胸部横径	
3 ウエスト幅	
4 ヒップ幅	
5 身長	高径
6 肩峰高	
7 乳頭高	
8 前ウエスト高	
9 股下高	
10 全頭高	全頭高
11 上腕長	四肢長
12 前腕長	
13 大腿長	
14 下腿長	

図5 計測部位

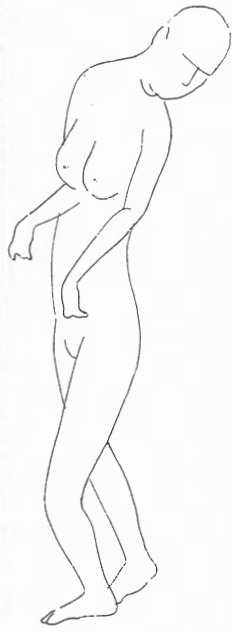


図1 A-2. 彦根屏風

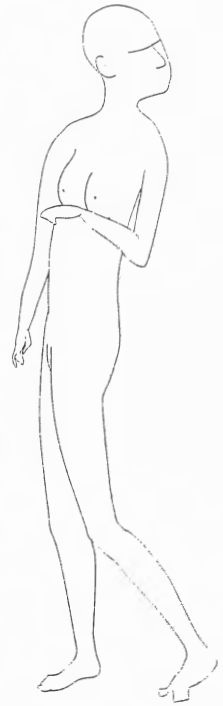


図2 D-3. 鈴木春信(風俗四季哥仙 水無月)

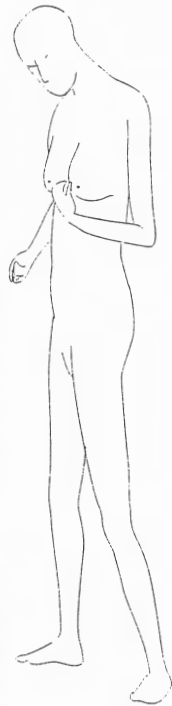


図3 E-19. 喜多川歌麿(婦人泊り客之図)

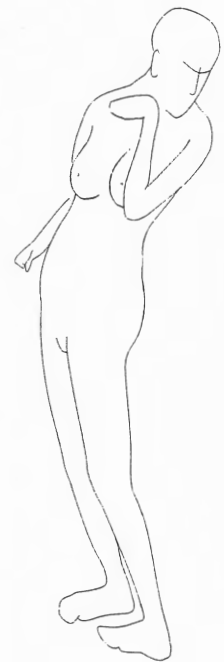


図4 F-4. 歌川国貞(すみだ川花の景)

### 3. 結果および考察

#### 3. 1 人体形状の時代的推移

表3は計測項目をA~Gのグループごとに平均した結果である。なお計測値はすべて示数で示した。また

図6~図9には全頭高、幅径、高径、四肢長の各項目についての推移をグループ平均値によって表した。

表3 計測項目の平均・標準偏差

計測項目	A.1600~1625		B.1625~1650		C.1675~1700		D.1750~1775		E.1775~1800		F.1825~1850		G.1850~1875		浮世絵全資料		現代成人女性	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
肩峰幅	21.24	1.82	19.47	0	18.31	0	18.79	1.41	18.63	2.34	22.45	2.81	19.49	1.63	19.94	2.79	22.06	20.8
胸部横径	17.02	1.6	17.3	0	16.71	0	15.35	1.94	15.19	1.05	16.19	1.34	16.92	1.22	15.87	1.47	17.14	18.7
ウエスト幅	16.76	1.84	16.08	0	17.59	0	13.37	0.98	14.84	1.01	15.93	1.03	15.46	1.03	15.25	1.4	14.36	18.9
ヒップ幅	20.69	0.64	20.6	0	16.86	0	16.26	0.93	18.46	1.93	20.67	1.19	17.48	1.22	18.85	2.1	20.95	19.6
肩峰高	83.3	1.12	81.89	0	75.61	0	81.75	1.2	83.46	1.43	81.21	1.63	81.47	1.29	82.24	1.98	80.91	49
乳頭高	68.14	2.55	69.18	0	65.17	0	70.74	0.96	73.07	1.89	70.93	1.84	71.63	1.66	71.55	2.44	71.11	46.5
前ウエスト高	56.77	1.73	58.55	0	52.74	0	57.43	1.38	60.72	1.63	57.78	1.26	59.27	0.81	58.98	2.22	61.19	40
股下高	41.27	0.62	42.38	0	35.95	0	41.73	1.98	45.24	1.51	42.16	1.48	44.32	0.86	43.46	2.37	45.15	36.8
全頭高	14.48	0.89	13.26	0	13.93	0	14.44	0.75	12.45	1.05	14.81	1.21	13.06	0.41	13.52	1.43	13.98	11.5
上腕長	20.13	2.54	19.69	0	19.5	0	19.84	1.49	20.61	1.75	18.94	1.84	18.95	1.78	19.81	1.93	18.53	16.6
前腕長	16.45	1.48	16.17	0	13.85	0	15.73	1.15	15.56	2.26	13.81	1.56	15.17	1.32	15.1	1.99	14.66	17.1
大腿長	24.32	2.2	26.08	0	23.29	0	25.75	0.6	27.35	1.63	25.61	0.79	25.77	0.8	26.24	1.65	26.4	27.9
下腿長	17.01	1.48	19.17	0	18.2	0	18.58	0.73	19.44	1.3	18.78	0.83	19.85	0.71	19.05	1.25	21.01	21.15

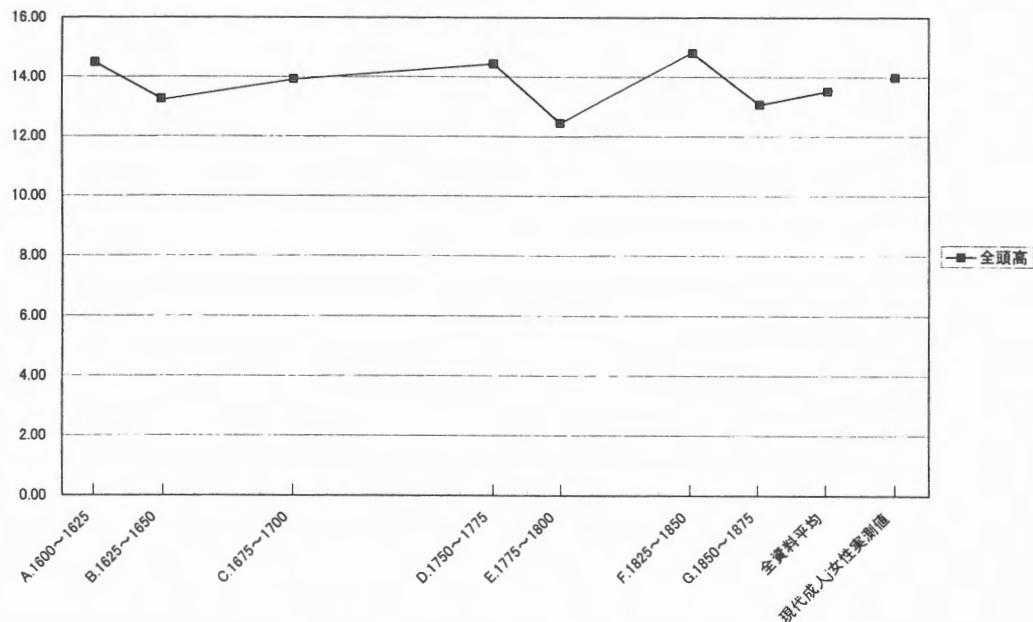


図6 全頭高の推移

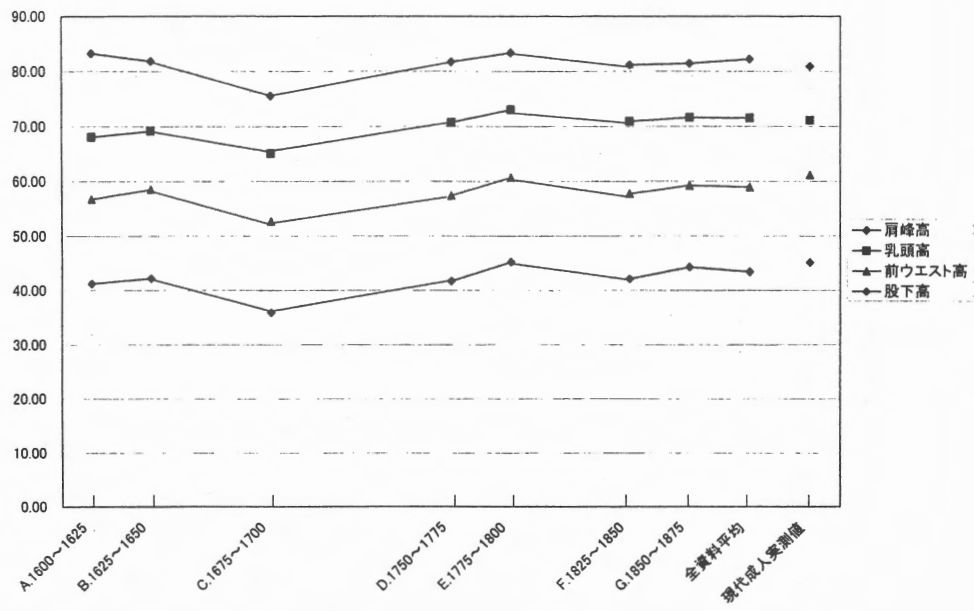


図7 高径の推移

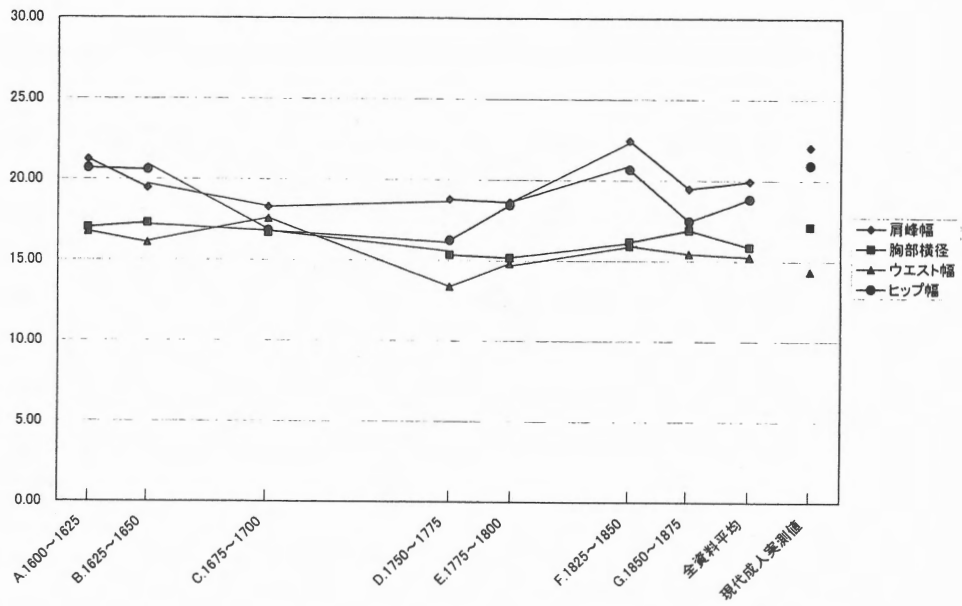


図8 幅径の推移

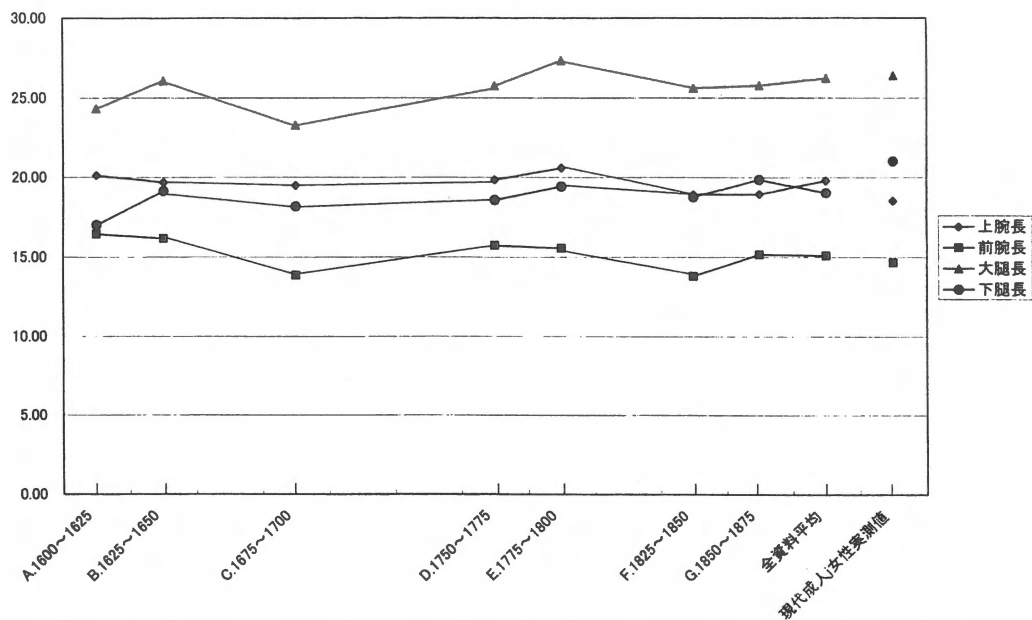


図9 四肢長の推移

幅径項目はいずれの項目も A から C へと減少し、D ではグループを通して最も小さな値となり、以降は再び G へと増加している。肩峰幅では F が極めて大きく、次いで A、G の順である。肩峰幅は B を除いてすべてのグループでヒップ幅よりも大きい。胸部横径とウエスト幅は、肩峰幅、ヒップ幅と比較して A から G までの推移の変化が小さい。四肢長については、上肢、下肢ともに E は大きい値を示し、C と F は低く、D は中間の位置にある。全頭高の値は、F が最も大きく E が小さい。四肢長と全頭高との関係をみると、四肢長の値が大きいグループは全頭高が低く、逆に四肢長の値の低いグループは全頭高が大きい。高径では E が最も大きい値で、次いで A と B の順になっている。C は四肢長と同様に高径も小さい。幅径と四肢長の項目では E から G では比較的推移の変化が大きく見られるが、高径では一定し推移はあまりみられない。

これらの結果から、江戸時代の初期では足が短くヒップの大きい人体が描かれ、その後は幅や高さが小さく、四肢も短い人体表現となり、18 世紀中頃からは、バストやウエストの位置が高く、長い手足をもった細身の人体が描かれていたことがわかる。さらに江戸

時代の後期から幕末になると、顔が大きく肩や腰が張る一方、手足の短い人体表現になり、明治時代に入るといずれの項目も他の時期と比べて特徴のない中間的な人体が描かれたと言える。時代推移の全体傾向を見ると、肩峰幅とヒップ幅の値の推移の変化は著しく、胸部横径やヒップ幅の推移の変化は少ない。また全頭高は、全身形状のプロポーションを把握する際に重要度が高く、プロポーションの印象を左右するが、グループの中で最も小さい全頭高の値を示す E を全資料から除いて平均すると、その値は現代成人実測値とほぼ同じ値となり、浮世絵の頭部は多くの時代で現実的な人の頭の大きさに近いバランスによって描かれていたと言える。

### 3. 2 同時期の絵師における人体表現

浮世絵では同時期においては異なる絵師であっても、非常に似通った表現があるが、具体的にどの点が類似しているのか、また異なる点はどこに見出せるのかを比較的作品数の多い E の 3 名の絵師、およびの F の 2 名の絵師を取り上げて考察する。各項目の計測結果の平均値を表 4、表 5 に示す。

表4 グループ E, F における絵師の比較

項目	E. 栄之		E. 清長		E. 歌麿		E. 英泉		F. 国貞	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
肩峰幅	19.60	3.14	18.53	2.54	18.63	1.83	20.86	2.92	24.30	1.50
胸部横径	14.39	0.25	14.70	0.87	15.71	0.93	16.25	1.16	16.12	1.43
ウエスト幅	14.31	0.06	14.82	1.02	14.91	1.07	15.78	0.80	16.12	1.19
ヒップ幅	17.17	1.31	18.99	2.02	18.11	1.75	20.14	1.06	21.30	0.78
肩峰高	83.50	1.40	83.66	1.73	83.27	1.39	80.92	1.49	81.55	0.99
乳頭高	71.84	0.56	73.37	1.82	72.93	2.03	71.23	2.10	70.59	1.47
前ウエスト高	60.75	0.96	61.23	1.38	60.26	1.41	57.68	1.83	57.90	1.10
股下高	46.06	0.06	45.80	0.81	44.66	1.22	42.47	1.17	41.80	1.24
全頭高	12.47	0.02	12.06	1.48	12.79	1.50	14.64	1.61	15.01	1.55
上腕長	21.65	1.52	19.93	1.56	21.11	1.74	18.37	2.28	19.60	0.82
前腕長	15.72	0.10	16.20	2.32	14.97	2.25	13.85	0.90	13.76	1.96
大腿長	26.64	0.82	27.70	1.49	27.11	1.81	25.67	0.38	25.54	1.01
下腿長	19.85	0.58	19.39	1.55	19.44	1.12	18.98	1.00	18.55	0.63

Eでは上述の3.1の計測結果から、小さい全頭高と長い四肢長が特徴であったが、3名の絵師の頭身示数をみるとEの絵師はいずれも値が小さい。Eの中では清長が最も小さく、次いで栄之、歌麿の順となっているが、浮世絵の全身の印象として、すらりとした人形という表現がされることが多いのは栄之である。栄之の計測値を見ると、胸部横径、ウエスト幅、ヒップ幅は清長、歌麿よりも小さく肩峰幅が大きい。頭部寸法は清長のほうが小さいが、広い肩峰幅を描いている栄之は、その頭部と肩部の対比によって頭部が小さく感られ、細身の体形を印象づけている。歌麿は3名の中では高径が小さく、幅径やや大きく、特に乳頭幅が大きい。清長は栄之、歌麿よりも高径が大きく幅径は比較的小さい。このことから8頭身の浮世絵と称される清長は、人体の部位高さ11)と小さい顔が美しいプロポーションを感じさせ、表情が豊かであるとされる歌麿は、他の2名に対して中間的な顔の大きさと上半身の幅の広さによって、現実的な理想像としての人体を感じさせると言える。

Fでは上述の3.1の計測結果から、幅径が広く短い四肢長の人体表現が特徴であった。Fの2名の絵師は、幅径では国貞が大きく、高径は栄泉が大きい。計測値の傾向は非常に類似している。このFの時期の浮世絵には、その容姿をたどった猪首という表現がある。この点について全頭高下端と肩峰高の高さの差を表6で見ると、Fでは他のグループと比較してこの差が小さい。このことは肩の位置と顔面の位置に差が少なく、

表5 グループE, F における絵師の頭身示数

	頭身指数平均
E. 栄之	8.02
E. 清長	8.33
E. 歌麿	7.88
F. 英泉	6.87
F. 国貞	6.71

表6 全頭高下端と肩峰高の高さの差

	全頭高 平均 = (a)	肩峰高 平均 = (b)	身長-肩峰 高(b) = (c)	(c)-(a) = 高さの差
A. 1600~1625	14.48	83.3	16.7	2.22
B. 1625~1650	13.26	81.89	18.11	4.85
C. 1675~1700	13.93	75.61	24.39	10.46
D. 1750~1775	14.44	81.75	18.25	3.81
E. 1775~1800	12.45	83.46	16.54	4.09
F. 1825~1850	14.81	81.21	18.79	3.98
G. 1850~1875	13.06	81.47	18.53	5.47
全資料平均	13.52	82.24	17.76	4.24
現代成人女性	13.98	80.9	19.1	5.12



表7 前頭面に対する浮世絵ポーズの描写比

	前ウエスト高	股下高	全頭高	身長
A. 1600～1625	1.01	1.00	0.92	1.03
B. 1625～1650	1.02	0.99	0.98	1.03
C. 1675～1700	1.00	0.97	0.90	0.93
D. 1750～1775	1.00	0.98	0.95	1.03
E. 1775～1800	1.01	0.98	0.93	1.03
F. 1825～1850	1.00	0.97	0.90	1.02
G. 1850～1875	1.01	0.98	0.96	1.04
全資料平均	1.01	0.98	0.93	1.03

頭が短いことを示している。さらに正面直立状態に対する浮世絵のポーズ各部位の描写比を表7に示す。この描写比は、浮世絵の人体の傾きや伸縮を表わすもので、1に近いときにはそれらが小さいことを示す。具体的に値が1よりも小さい場合には、浮世絵の人体が直立状態よりも傾斜し小さく縮んでいることを示し、1よりも大きい場合には直立状態よりも伸びていることを示す。この表からFは他のグループと比較して全頭高の描写比が大きく、それは下方へと傾いていることがわかる。これらの結果から、これまで言われてきたFについての猪首とは、見かけ上の頸の短さと頸の下方への傾きから受ける印象を表現したものであると言える。

### 3・3 浮世絵の胸部プロポーションの特徴

女性の胸部の形状において肩部、胸部、腰部の幅や

表8 胸部幅径のバランス

(ウエスト幅を1とした場合)

	肩峰幅	胸部横径	ヒップ幅
A. 1600～1625	1.27	1.02	1.23
B. 1625～1650	1.21	1.08	1.28
C. 1675～1700	1.04	0.95	0.96
D. 1750～1775	1.41	1.15	1.22
E. 1775～1800	1.26	1.02	1.24
F. 1825～1850	1.41	1.02	1.3
G. 1850～1875	1.26	1.09	1.13
全資料平均	1.31	1.04	1.24
現代成人女性	1.54	1.19	1.46

表9 胸部高径のバランス

(肩峰高と乳頭高の差を1とした場合)

	乳頭高-前ウエスト高	前ウエスト高-股下高
A. 1600～1625	0.75	1.02
B. 1625～1650	0.84	1.27
C. 1675～1700	1.19	1.61
D. 1750～1775	1.21	1.43
E. 1775～1800	1.19	1.49
F. 1825～1850	1.28	1.52
G. 1850～1875	1.26	1.52
全資料平均	1.18	1.45
現代成人女性	1.01	1.64

高さのバランスは、寸法では把握できない形状の具体的な特徴を表出する<sup>12)</sup>。そこで胸部の幅径項目と高径項目について、プロポーションを算出し、グループごとの平均値を現代成人実測値と比較した。

表8は、ウエストを基準とした場合の肩峰幅、胸部横径、ヒップ幅のバランスを示し、表9は肩峰高と乳頭高、股下高の位置のバランスを示す。幅径のバランスでは、浮世絵の人体はウエスト幅を基準とした場合、現代人と比べて肩峰幅、ヒップ幅ともに小さい。また胸部横径とヒップ幅の差も現代人と比べて小さい。高径項目の位置のバランスを見ると、乳頭高の位置からウエスト高の位置までは、A、Bを除いてどのグループも現代人よりも長い。またウエスト高の位置から股下高の位置までは浮世絵のほうが現代人よりも短い。これら幅径と高径のバランスの結果から、浮世絵の胸部のプロポーションでは、胸の位置からウエストまでが肩峰高と乳頭高の差よりも極めて長く表現されることが多かった。すなわち浮世絵の女性の多くはずん胴型に表現される傾向が強かった。

### 4. おわりに

本研究では、浮世絵に描かれた人体形状を手掛かりとして推定される人体の形状を描出し、人体各部位の寸法やプロポーションを算出するという手法によって人体寸法のデータベースの構築を試みた。17世紀前半から19世紀後半までの浮世絵49作品の女性の人体形状について分析し、その特徴についての定量的分析を行った結果、異なる絵師であっても同時期においては人体形状の捉え方には共通性が見られること、人体の

部位の捉え方には時期的推移が強く見られる箇所、見られない箇所があること、現代成人実測値と比較してくびれの少ないずん胴型の人体を描いていることを指摘した。

このように絵画資料の定量的分析から得られる当時の人体寸法や体形に関して意味のある情報は、生体計測値や写真などのなかった時代の人体を知る手掛かりとなり、種々の分野で絵画を活用する可能性が開かれると考えている。本研究では浮世絵の人体形状を着衣の上から推定し、描出する方法を行ったが、より有用な人体寸法のデータベースを構築するためには、資料とする作品数を絵師ごとに偏りなく取り上げ、著名な作品のみならず、より広範囲の作品を対象に加えていく必要がある。さらに今後の課題として、着衣で見えない部位についてより正確に描出するため、着物および帯の着衣形状についての分析も取り上げたい。

#### 参考文献

- 1) 平本 (1972) 縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化, 人類誌, vol.80.No3, 221-236.
- 2) 平本(1981) 骨からみた日本人身長の移り変わり, 考古学ジャーナル 197, 24-28.
- 3) 佐宗, 埴原 (1998) 日本人女性の新しい身長推定式, 人類誌 vol106.No3, 221-236.
- 4) 小林 (1998) 浮世絵の歴史, 美術出版社
- 5) 田中 (2000) 高橋源一郎の浮世絵と経済学, 上武大学商学部紀要, vol.12.No1, 73-92.
- 6) 稲田 (1997) 浮世絵における美的表現上の一考察, 常葉学園浜松大学経営情報学部論集, vol.9.特別号, 650(1)-611(40)
- 7) 荒木 (1985) 浮世絵における身体感について—江戸時代の伝統芸術から—, 青葉短期大学紀要, 第 10 号.43-53.
- 8) 小池 (1968) 近世における和洋服の衿元の研究 (1), 広島女子大紀要, 77-97.
- 9) 山田, 早川, 村上, 埴原 (2002) 浮世絵における顔表現の科学, 国際日本文化研究センター日本研究 25, 13-49.
- 10) 山田 (1999) 浮世絵における顔表現の分類と識別の一手法, 情報処理学会論文集 vol.40.No.3.
- 11) 小林, 大久保 (2000) 浮世絵の鑑賞基礎知識, 至文堂.
- 12) 篠崎 (1998) 女性の美しさ (1) —ワコールが提案する美の基準「ゴールデンカノンについて」 (1998), 繊維製品消費科学 vol.8.37-39.
- 13) 鈴木 (1963) 日本人の骨, 53-57, 岩波新書.
- 14) 野口 (1919) 肉体美の清長, 中央公論 34(1), 51-62.
- 15) C・H シュトラッツ(1969) 日本人のからだ, 乃江書院.
- 16) 鈴木 (2000) 日本人のからだ健康・身体データ集, 朝倉書店.
- 17) 間壁 (1994) 被服のための人間因子, 日本出版サービス.
- 18) 日本人の人体計測データ集 (1996) 人間工学生活センター.
- 19) 河鱈 (1971) 井上, 日本服飾美術史, 家政教育社.
- 20) 吉川 (1968) 日本女装史, 全日本人形師範会.
- 21) 菊池 (1968) 原色日本の美術 17, 小学館.
- 22) 檜崎 (1965) 美人画・役者絵 1~7, 講談社.
- 23) 小西 (1977) 錦絵幕末明治の歴史, 第 10 巻.
- 24) 恵 (1993) 月岡芳年の世界, 東京書籍.
- 25) 亀井, 高橋, 田中 (1964) 日本の美 22, 平凡社.
- 26) 特別展「四都美人装い競べ」図録 (2003) 神奈川県立歴史博物館.
- 27) 鈴木 (1991) 名品揃物浮世絵 6. 7, ぎょうせい.
- 28) 西田 (1993) 人体美学, 現代社.